

# 激しい議論にドキドキ!



大石田小学校6年生が議会を傍聴

12月定例会最終日に、大石田小学校6年生36人が議会を傍聴しました。少し緊張した面持ちでしたが、熱心にメモをとり議論に耳を傾けていました。紙面の都合上10名の感想をご紹介します。

ぼくたちは、議会を見学させていただきました。一時的に激しい議論がくり広げられて、これはもう、村形議員さんもおぼしが出てしまうのではないかと、思いました。でも、議会の途中、休けいをはさんでいるとき、笑って話し合っていたので、とてもびっくりしました。二人はおたがいの意見を戦わせていただけだという話をきいたので、「ふう」とぼくは一息ついて、すごく安心しました。議会の会場は、国会と似ていました。ぼくは、自分の考えをしっかりと持っているようになることが大事だと思いました。

榎本 丞



町議会を初めて見て、私は最初、討論会のようななと思いました。それに、質問にもすぐ対応できていて、さすがだなと感じました。仲が良い人と、意見を戦わせるのは辛くないですか。でも、仲が良いからこそ、意見を戦わせ、決断を出しているんですね。それは戦うということではなく、協力しているということ、よりよい町づくりに大切なことだと思いました。私も、ちゃんとした意見を持つように、これから町や国の政治に、目を向けたいと思いました。

大類 綾乃

私は、布川教育長さんがおっしゃった、子ども・市民の安心安全が第一だという言葉が心に残りました。大石田町の町民のことを、本当に大事に思っているんだなと思いました。村形議員さんの、里山スキー場を残したいという気持ちも、強く伝わってきました。こんなふうに議員さんたちが町のために意見をかわし合うことは、とても大事なことだと思います。私たちが、ことを大切に思ってください。方がこんなにたくさんいらっしやるということに感謝したいと思います。

星川 実柚

町議会では、里山スキー場について話し合っていました。私は、里山スキー場を廃止してほしくないという考えで話を聞かせてもらいました。でも、話をよく聞いてみると、一年間で一千万円の赤字を出しているなどのことが分かりました。廃止はしてほしくないという人はたくさんいると思います。私だっただけでも決断できません。町議会に出てくる方たちは、大石田町をよりよい町にしようと考えてたくさんの方々の意見を出して最後に決断をしてくださるのだと思います。

志田 新萌

初めて議会を傍聴して、町議会というのは町をよりよくするための大切な会議なんだなあと感じました。話し合っている議員さんたちがどうしたら暮らしやすく、住みよい町になるのか真剣に考えて意見を言い合っている姿に私は心を打たれました。こうして町民の意見をふまえて、よい案を考えているから、今の暮らしやすい大石田町があるのだと思います。たくさんの方々の意見の中からよい案を考えるのは難しいことだと思いますが、これからも町のためにがんばってください。

佐竹 泉紀

町議会の里山スキー場についての話し合いを聞いて、私は、里山スキー場を残してほしいと思いました。でも、布川教育長さんが言っていた町の予算や赤字の話を知ると、残すのが難しいのかなとも思いました。話し合っている布川教育長さんと村形議員さんは、自分の意見を強く主張していて、よりよい町にしようという気持ちが伝わってきました。私は大石田町が観光客が喜ぶ美しい町になってほしいので村形議員さんが言っていたツアーなどをぜひ実行してほしいと思います。

加賀 茜

議論を見ていたとき、けんかしているようでぎこちなくなりました。でも本当は仲良しだということを知ってホッとしました。ぼくは、毎年使っていた、里山スキー場がなくなるのはいやだけど、一千万円以上の赤字だったらしょうがないと思いました。そして、大石田中のあるところまでスキーができればいいと思うようになりました。議論は、思ったより静かでしたが、討論は激しかったです。議会の人みんな大石田のことを考えて、一生けん命に話し合ってください。すばらしいと思いました。

西村 聡留



三権分立について授業を受ける大小6年生。政治に関心をもちながら大人へと成長します。

今回は、里山スキー場の存続について傍聴しました。僕は最初、家から近く、便利なので続けてほしいだったので、議会が進んでいくうちに、経済面での厳しさや利用者が少ないという現実を知り、存続は難しいのではないかと考えは変わりました。しかし、この雪国ならではのスポーツをこの町からなくしてしまうのももったいない、と思います。議員さんたちのように、いろいろな意見を出し、この町をよりよくしていくことと考えるのはすばらしいことだな、と感じました。また傍聴してみたいです。

安達 良光



里山スキー場について討論していました。私は、大石田をより良くしたい住みよい町、笑顔の町にしたいという最終目的はいいしよだけ、それにはどうしたらいいのかという考え方が違っていると思いました。真剣だからこそ、意見がぶつかり合っているし、最後にはまとまるのだと思います。すでに決まったことを報告されることが多いけれど、今日はそれを決めるまでを見せてもらったので、一つのことを決めるのにこんなにも人と人との考えが合わされているんだと改めて感じました。

鈴木 美早樹

町議会を見て、アルペンスキーが大好きなのに、どうしてなくしちゃうんだろーんと思いました。布川教育長さんは里山スキー場をなぜ廃止するといったのかな。疑問に思いました。でも次々と話をきいているうちに、そういうことか！と分かるようになりました。人口も少なくなってきたからという説明を聞いてやっと廃止するといった理由が分かりました。議長さんの小林さんも真剣に話を進めていらして、大石田をすごく愛し、考えているんだなと感じました。

有路 瑠菜